

2014年9月29日 日本テレビ 定例記者会見

《 要 旨 》

< 発表 >

・ 日テレいつでもどこでもキャンペーン

10 月から「日テレいつでもどこでもキャンペーン」という、スマートフォンやタブレット、パソコン向けの CM 付き見逃し無料配信を引き続き実施する。新たに新木曜ドラマ「ピント！～弁護士事務員ミノワが愛で解決します～」など複数の番組を配信する予定である。

・ ルーヴル美術館展

10 月 2 日に、当社のホールで「ルーヴル美術館展－日常を描く 風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」に関する記者発表会を行う。展覧会は、来年 2 月 21 日から東京・六本木の国立新美術館で開催、その後京都市美術館に巡回する。

・ 日本テレビホールディングス組織改正

10 月 1 日付の発令で、認定放送持株会社「日本テレビホールディングス」の中に「総合編成戦略局」を設ける。

持株会社化以降、地上波、BS、CS の 3 波の総合編成、総合運用を掲げて進めてきた。今年 4 月からネット配信会社「Hulu」を買収、運営することになり、今後は地上波、衛星波、ネット配信を合わせて、総合的にコンテンツの編成戦略を考え、具体的に実施し、宣伝などについても同様に行っていくことを意図している。

1. 視聴率動向と編成戦略

・ 視聴率データ

先週は週間三冠王を獲得した。また、9 月の月間、7 月クール（7 月～9 月）、年度上半期（4 月～9 月）の視聴率でも三冠王を獲得した。

そして、26 地区すべての地区で、日本テレビ系の局が、9 月の月間、7 月クールの視聴率で三冠王を獲得している。年度上半期は、1 地区が二冠にとどまり、その他の 25 地区で三冠王獲得という状況である。

当社の年度上半期の視聴率は、予想を超える高視聴率であった。各番組の制作者が非常にきめ細かい改善、挑戦を行い、内容が非常に良くなり、それを視聴者の皆様に評価していただいた結果が数字に表れたと考えている。

また、これまでずっと“視聴習慣”を大切にして取り組んできたことが実を結んだとも思っている。しかし油断するとすぐ“視聴習慣”は崩れてしまうので、視聴者の皆様が、新聞の番組表を見なくても分かるぐらいになることを目指していく。

・ 10 月期改編

10 月期も特に大きな改編は行っていない。ただ 2 つの連続ドラマがどれだけ頑張れるか、非常に期待している。7 月期の水曜ドラマ、土曜ドラマは、民放の連続ドラマの中で平均視聴率が 4 位、5 位となった。10 月期ドラマでは、もっと上を狙っていきたい。

・ プロ野球 ポストシーズンの放送

読売巨人軍がセ・リーグ優勝したことを受け、クライマックスシリーズ・ファイナルステージは地上波で最大 5 戦の放送を予定している。それに加え、BS 日テレでトップ&リレー中継、日テレ G+ では完全生中継する。また、日本シリーズ進出チームが決まる試合に関しては、地上波で無制限延長する。

また、読売巨人軍がファイナルステージで勝ち、日本シリーズに進出した場合は、1 戦、2 戦、6 戦、7 戦を地上波で無制限延長し、日テレ G+ での完全生中継、あるいは BS 日テレでのダイジェスト版放送などを予定している。

2. 営業状況

・ 放送収入

8 月のタイムセールスは、ほぼ前年同月並みという水準であり、スポットセールスは前年同月より 11% の伸びを記録している。消費税増税の影響もあり、4 月のスポットは前年割れしたが、5 月以降は回復し、その後は前年超えを続けている。上半期のタイム、スポットのトータルでは、前年を少し上回るといった状況である。

今後の見通しは、景気動向など読みにくい点もあるが、10 月のスポットも 100% を超え、前年同月を上回ることを期待している。

・放送外収入

映画は、当社が幹事社である「ホットロード」がこれまでに 187 万人の動員を記録し、好調である。能年玲奈さん主演の映画であり、特に若い観客の動員が実現した。

スタジオジブリ作品「思い出のマーニー」は、270 万人を超える方々にご覧いただいている。

イベントでは、読売新聞社と当社で共催している「オルセー美術館展 印象派の誕生 - 描くことの自由 -」の入場者数が 50 万人を超えた。

3. その他

・4K 放送

総務省が当初予定していたロードマップを前倒して、2016 年から BS での 4K 試験放送をスタートさせることになった。既に Channel4K の放送が開始されており、当社もオールジャパンの推進体制の一員として、しっかりと準備を進め、コンテンツの制作、提供に協力していく。当面、BS で放送することになるので、BS 日テレを軸として日本テレビグループ全体で対応していく。

4K の実用放送が始まる 2018 年が 1 つの目標であり、将来を見据え、4K 制作が可能なスタジオの建設を視野に入れている。

・動画サイトへの違法アップロード

先日、動画サイトへの違法アップローダーが大量に摘発された。著作権侵害は、権利者の利益を毀損し、正当なビジネスの機会を喪失させることとなり、権利者はコンテンツの再生産のコストを賄えなくなることにつながる。著作権侵害の違法サイトの実態を各メディアがもっと調べ、様々な形で報道していくべきだと考えている。

・24 時間テレビ 37

今年の「24 時間テレビ 37」は、視聴率も良かったが、内容が非常に充実しており、多くの視聴者の方々に共感を持って受け入れていただけたのではないかと考えている。メインパーソナリティーの関ジャニ∞の皆さんをはじめ、出演者の方々が非常に良く頑張ってくれた。チャリティーマラソンランナーだった TOKIO の城島茂さんには、40 代とは思えない素晴らしい走りを見せていただき、とても感動的なフィナーレだった。

(了)